

蕎麦を繋ぐ そばでつながる

interview



高林中学校 校長
江連 宏昌 先生

地域の特色である「そば」を通して、地域を学び、地域と交流する高林中。そばゼミやそばフェスタは、生徒の自主性や表現力を育てる良い機会となっている。来年度から小規模特認校に指定される高林中の取り組みを紹介する――

そばを通して地域を学ぶ

一人一人に対し手厚い教育が提供されている高林中。現在、91人の全校生徒に対し、先生は24人。生徒30人に4人の先生が指導する授業もある。「仮に失敗しても、やり直せる。人数が少ないから、誰一人として埋もれないよ」と江連校長はとても朗らかに話した。その言葉からは、家族が子どもをそっと見守るようなそんな温かさを感じた。

「これからは、自分を表現する力も必要。学んだことをみんなの前で発表し、自信をつけてもらえれば」。そんな思いから昨年度から実施している「そばゼミ」。学年を混合した縦割り班で活動し、地域の食材や食文化を学ぶ。そばを栽培したり、そばを使ったお菓子を考案したりと班のテーマはさまざまで、生徒たちが自ら決定する。地域の蕎麦屋に話を聞きに行くなど、地域に出て行ってつながりを持つきっかけとなっている。

上級生は前年よりも良い成果を出そうと意欲的に活動。自ら学び、考えたことを学校公開で発表することで表現力がどんどん上達しているという。

育てたいのは地域への愛着

今年で20年目を迎えた高林中最大のイベント「そばフェスタ」。地元のそば愛好会などから指導を受け、2人1組でそばを打つ。「そば打ちは難しく、大人数では実施できない。少人数だからこそ指導が行きわたる」。手厚い指導を受けてきたベテランの先輩が、ペアを組む後輩に指導。このそばは敬老会に参加する高齢者にも振る舞われ、毎年感謝の言葉が学校に届くという。「生徒たちもこの日を楽しみにしている。事前のそばゼミの学習が生きるの達成感があるのじゃないか」と笑みをこぼし、「学んできたものが形となり、点と点が線につながる。生徒の表情も自信に満ちているのがよくわかります」と成果を振り返った。

「地域の人の支えがあるからこそ、貴重な学びを届けられる。本当にありがたい」と地域への感謝を述べた江連校長。「そばを通じて、地域を知り、人を知って、高林を好きになってくれれば」と子どもたちへの期待を語ってくれた。



interview

こうりんじ 住職

きみしま はるみつ
君島 春光 さん



20年前にふとしたきっかけで始まったそばフェスタも、今では恒例となりました。子どもたちは昔も今も素直で真面目。上級生と下級生がペアになり、教えながらそばを打つ様子は微笑ましいですよ。そんな姿を見ると私も自然と力が入るし、やりがいを感じます。昨年度から始めた「そばゼミ」も、自主性を高める良いきっかけになっているようです。卒業生からは「そばフェスタではお世話になりました」と言われることもありますよ。

成長して大人になったとき、子どものころの楽しかった思い出はきっと励みになります。地元の先輩として、子どもたちには地域を好きになってほしいし、そんな思いがこれからもつながっていけば良いと思います。

そばは生地をつなげて作るもの。そばを通して思いを伝え、人と人もつながっていけば、子どもたちにとっても良い地域になると信じています。

interview



かんた
八木沢 貫太 さん

そばフェスタでは、そばを一から自分の手で作ります。難しいけど、去年からの成長が感じられるのが魅力です。そばは地域の特産品。そば作りはこの学校でしかできないですし、地域の人と関わるのが楽しいです。小規模校だけ色々な人と関わられる、縦割りの活動も多いので、学年や性別もあまり関係ありません。この学校のそんなところが魅力です。

interview

高林中2年生にそばフェスタの感想を聞きました



うえだ うたこ
植田 詩子 さん

生地を薄く延ばすのが難しいですが、自分で考えて、工夫しながらそばを打つのは楽しいです。地域の方も小さい頃からの知り合いが多く、地域ならではの温かみを感じます。高林中は人数が少ないので、全員の顔と名前が覚えられます。また一人一人に色々な役割が与えられ、その分経験も広がりますし、思い出も増えるのでこの学校が大好きです。

